

Y8-13

電子カルテネットワークを利用した臨床工学関連情報の効率的運用

旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学課¹⁾、
旭川赤十字病院 副院長 医療技術部長²⁾
脇田 邦彦¹⁾、細矢 泰孝¹⁾、佐々木恒太¹⁾、
太田 真也¹⁾、貝沼 宏樹¹⁾、佐藤あゆみ¹⁾、
陶山 真一¹⁾、奥山 幸典¹⁾、飛島 和幸¹⁾、
住田 臣造²⁾

【目的】多職種が働く病院内においては各部門間の円滑な情報の伝達は、安全に業務を展開する上で非常に重要である。そこで当院で採用している電子カルテネットワークを利用して臨床工学、医療機器安全管理責任者関連情報の効率的な共有を図るために各情報を電子化して運用を開始したので報告する。

【方法・考察】電子カルテTOP画面の臨床工学課をクリックするとTOPページへアクセスできる。臨床工学課TOPページのデザインは医師・看護師など関連スタッフが直感的にわかるように情報の種類に応じたアイコンを作成し情報をリンクさせた。

項目としては院内取り決め事項、医療機器マニュアル、添付文書、各種チェックリスト、医療機器トラブル連絡票、その他タイムリーな情報などを掲載し常に更新している。さらに添付文書管理は医療機器安全管理責任者の責任として明記されており、いつでも誰でも必要時に確認することができる環境を提供する義務がある。しかし添付文書は医療機器、医療器材を含め数千品目にも及び、情報量が膨大であるためその管理・維持には多大な労力を必要とする。従来は主要な情報だけを個別にpaperベースで各病棟へ配置、配布をしていたが、電子化することによって関連情報を一元的に閲覧することが可能となった。これらの関連情報は院内にある627台の端末どこでも閲覧することが可能である。

【結語】ペーパーベースで行っていた院内各部署への医療機器マニュアル、添付文書などの臨床工学関連情報を電子カルテネットワークを利用して電子化したことにより情報の効率的運用が可能となった。

Y8-14

システムを活用したサマリ作成率向上への取り組み

北見赤十字病院 事務部企画課
高松 伸行、鈴木 真一、河野 洋樹

【はじめに】退院時サマリーとは、入院された患者様の入院日、退院日、入院病名、転帰、経過内容等を要約したものであり、診療録管理体制加算の一つの算定基準となっている。医師数の少ない地方病院では、医師の業務負担となっている。当院では、システムを活用したサマリー作成率向上への取り組みを行い、4年間を経過した。それについて報告する。

【目的】多くの医師から、系統的にサマリー未作成患者を知りたいという要望があったため、それを解消するために独自にシステムを開発した。

【概要】当院の電子カルテシステム（オーダリングシステム）から、「サマリー一覧確認システム」へ入り、科の選択、退院日順、医師名の昇降順に抽出が可能とした。また、サマリ未作成又は作成済それぞれに抽出できる仕様とした。一覧から、サマリ作成画面を直接展開することが可能となった。

【効果】平成19年6月に稼働後、サマリ作成率は平成19年6月末日退院分で88.6%、7月末日退院分92.2%、8月末日退院分で93.6%の上昇となった。平成23年直近では93%となっている。

【今後の課題】平成20年に医師事務作業補助体制加算が新設された。退院時サマリーの作成においても一部代行入力もされているが、今後医師の業務軽減のために、作成率向上と共に、代行入力にも取り組みたい。